

# 震災ボランティア派遣 FAX通信⑱

各組合・地域労連

御中



2011年8月5日

週末ボランティアもOK!

青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール [ao110@kenrouren.jp](mailto:ao110@kenrouren.jp)

【発信者】事務局長 有馬美恵

## 高教組チーム 古村さんの感想

陸前高田市でのボランティア活動

鶴田高校 古村 卓也

「国難である。」TV番組で誰かが言ったこの言葉。今回、被災地に入り惨状を見、それを肌で感じた4日間だった。

7月24日、この日は移動日。同道の3人の方々と奥州市江刺区の宿に泊まる。蝉の大合唱で迎えられ、蛙の音が響き始める中、眠りにつく。夜、翌朝と2回地震があり、揺れが大きく内心びくびくしながら眠る。

翌25日、ボランティアセンター（以下VC）に向かい登録手続きをし、注意事項等の説明を受ける。仕事として礼状作成の任を受け、指定された建設会社へ行き、手書きにて礼状作成開始。作業途中、建設会社の社長より礼状を出すに至った経緯を伺う。よれば、震災数日後、被災した人々の姿を見、会社裏にドラム缶を用いた風呂を製作。その後、近くの公民館倉庫に風呂場を新設した際にラジオで取り上げられ、全国からシャンパー・石けん類が続々届いた。そのお礼のための礼状とのことだった。



礼状を書きつつ、ボランティア活動にもいろいろな仕事があるのだなと思いつつ、皆で作業し作成完了。終了後、復興の湯に浸かりVC経由で宿へ移動。2日目からは大船渡市三陸町の海に面した宿にお世話になる。近くの漁港まで散歩したところ、大分片付いてはいたが、爪痕が生々しく残っており、被害の大きさがうかがえた。

鋼鉄の柱がひしゃげ、コンクリートの床や壁が砕かれ、船が何隻も損壊していた。また、近くの住宅も被害を受けており、改めて津波の大きさを実感した。

翌26日の作業は園芸用石材会社の商品整理だった。商品といっても波を被ってしまっているのので、お店へ卸せず、整理後は格安で販売するという話だった。我々4名でフォークリフト用のパレット上に石を種類ごとに載せていく。途中、何度かスズメバチが飛んできたため、注意しながら続行。午後に入ると山の彼方で雷が鳴り始め、VCより「雷雨になりつつあるため、撤収してください。」との連絡があった。そのため、区切りのよいところで作業を切り上げ、VCに帰還。帰還途中から天候は雷雨になる。その後、宿に戻り食事をとったのだが、量が多かった。これは作業者への慰労分なのだろうか。えらい量である。ありがたくいただく。

最終日の27日は朝から雨模様。よって、自分は雨合羽を装備。VCに向かう途中より雷雨へと天候が激変。VCで仕事を受け、作業先の民家に迷いながら到着する頃には晴天に変化。作業内容は民家の敷地奥にある廃棄物を重機の入ることのできる道路側への移動。4名で作業するも大小様々な物体があり、なかなかしんどい。また、降雨後のため気温もぐんぐん上昇。合羽装備の自分は汗だく、長靴の中にも汗がたまり、ちゃぷちゃぷと音がする。長靴を逆さにすると、汗が流れ落ちてきた。途中、小休止も入れ、昼まで作業。終了後、VCに戻り報告。青森県帰還前に復興の湯に浸かる。その後で初日、お話を伺った社長さんと再びお話をする機会があった。復興の湯は7月で終了予定であったが、各方面より継続のお願いがあった事、また、新たに温泉発掘計画を考えていること、がれきの処理方法等いろいろなご意見・提案を聞くことができた。いい方向に向かいつつある兆しをうかがうことができ、ぜひ実現してほしいと思いつつ陸前高田市をあとにする。

現状を鑑みるに、復興にはまだまだ長い時間がかかると思う。がれきの処理方法、新たな街づくりはどうするのか、防災・減災についてのハード・ソフト面での整備ほか様々ある。また、被災者の方々の生活再建は本当に大変だろうと思う。被災された方々、地域のできるだけ早い復興を願い、今後もいろんな形で支援をさせていただければと考えている。